

2 出生

(1) 出生数・出生率

令和元年の出生数は4,594人で、前年の4,887人から293人減少し、出生率（人口千対）は6.9（全国第20位）で、前年の7.3を下回った。出生数、出生率ともに昭和46～49年の第2次ベビーブーム以降、ゆるやかな減少傾向が続いている（図1）。

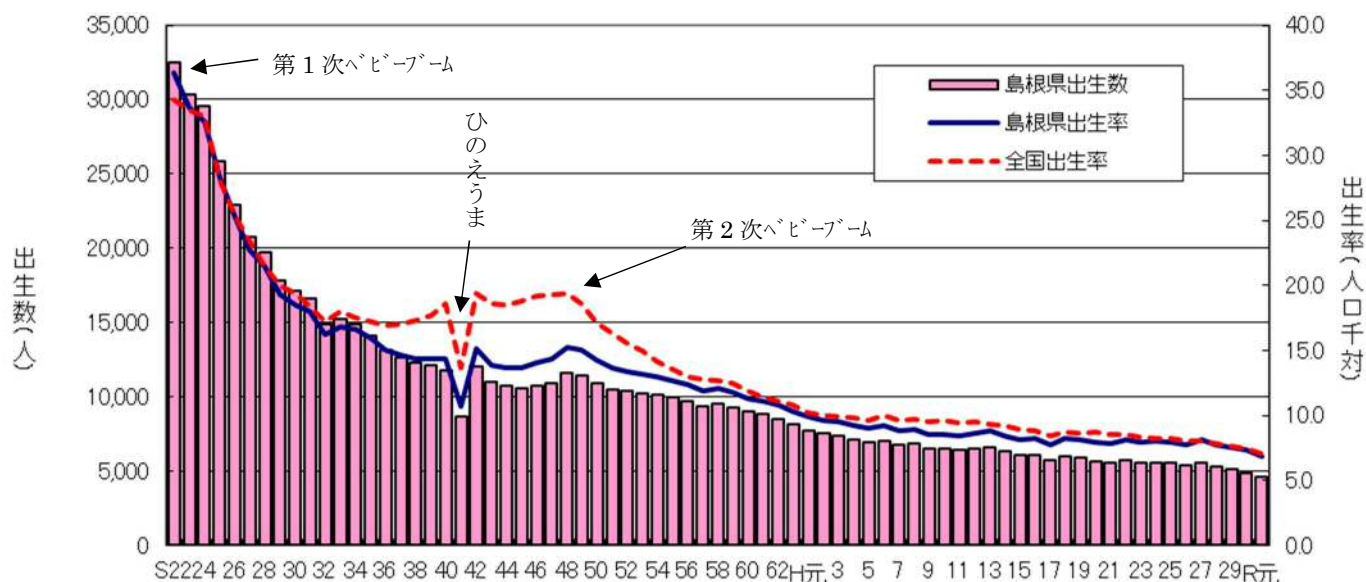


図1 出生数・出生率（人口千対）の年次推移

出生数を母の年齢（5歳階級）別にみると、15歳～19歳、35歳～39歳の各階級が前年より増加し、その他の各階級では減少した（表2）。

表2 母の年齢（5歳階級）別にみた出生数

母の年齢	出生数				対前年増減		
	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	29年－28年	30年－29年	元年－30年
総数	5,300	5,109	4,887	4,594	△ 191	△ 222	△ 293
～14歳	1	-	-	-	△ 1	-	-
15～19	70	38	32	33	△ 32	△ 6	1
20～24	472	459	455	417	△ 13	△ 4	△ 38
25～29	1,537	1,361	1,399	1,308	△ 176	38	△ 91
30～34	1,769	1,864	1,739	1,593	95	△ 125	△ 146
35～39	1,152	1,136	982	1,015	△ 16	△ 154	33
40～44	292	247	270	225	△ 45	23	△ 45
45～49	7	4	10	3	△ 3	6	△ 7
50歳以上	-	-	-	-	-	-	-

出生順位別にみると、令和元年はいずれの出生順位においても、出生数が前年より減少した（表3）。

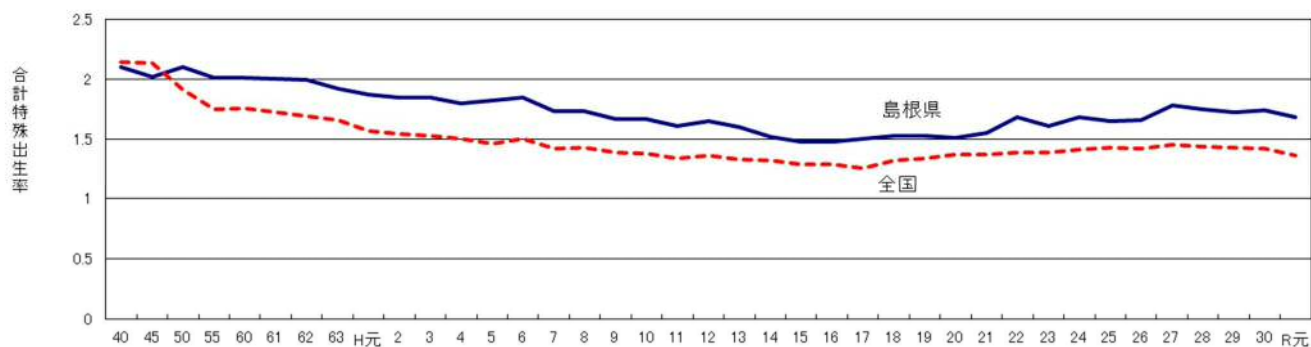
表3 出生順位別にみた出生数の年次推移

出生順位	出生数				対前年増減		
	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	29年－28年	30年－29年	元年－30年
総数	5,300	5,109	4,887	4,594	△ 191	△ 222	△ 293
第1子	2,190	2,025	2,021	1,827	△ 165	△ 4	△ 194
第2子	1,933	1,914	1,760	1,679	△ 19	△ 154	△ 81
第3子以上	1,177	1,170	1,106	1,088	△ 7	△ 64	△ 18

(2) 合計特殊出生率

令和元年の合計特殊出生率は1.68であった。全国と比較すると、昭和50年以降一貫して島根県が上回っており、令和元年の順位は全国第3位である(図2)。

図2 合計特殊出生率の年次推移



○算出方法

※1 ※2
「(母の年齢別出生数) ÷ (年齢別女性人口)」の15歳から49歳までの合計

※1 (母の年齢別出生数) = (分子): 「人口動態統計」(厚生労働省)

※2 (年齢別女性人口) = (分母): 「推計人口」(総務省、ただし国勢調査年は国勢調査における日本人口)

母の年齢（5歳階級）別出生率の昭和45年以降の推移を見ると、年により多少の増減があるものの、概ね20歳代では低下傾向、30歳代では上昇傾向にある。令和元年は25～29歳、35～39歳の各階級で上昇し、20～24歳、30～34歳の各階級では下降した。（図3）。

図3 母の年齢(5歳階級)別出生率の年次推移

